

「私たちの手引き」(ニューコミュニティ合同礼拝)

ローマ人への手紙 13章 8～10節



キリスト教会は、「十戒」「主の祈り」「使徒信条」の三つを「三要文(さんようもん)」と読んで、信仰と生き方を表すものとして大切にしてきました。ただ「十戒」については、「律法」の持つイメージや受け入れ難さもあり、積極的に親しんでいるとは言えません。あらためて今のこの時代にあつて、私たちは生き方の手引きとしての律法の大切を見直したいと思います。

① ガードレールではなく、手引き(トラー)として

“ただ強くあれ。雄々しくあれ。わたしのしもべモーセがあなたに命じた律法のすべてを守り行うためである。これを離れて、右にも左にもそれではならない。あなたが行くところどこでも、あなたが栄えるためである。” ヨシヤ 1:7-

② 貸し借りの考え方ではなく、愛を追い求める

“だれに対しても、何の借りもあってはいけません。ただし、互いに愛し合うことは別です。他の人を愛する者は、律法の要求を満たしているのです。” 13:8

③ すべては神を愛することから始まる

“イエスは彼に言われた。『あなたは心を尽くし、いのちを尽くし、知性を尽くして、あなたの神、主を愛しなさい。』これが、重要な第一の戒めです。『あなたの隣人を自分自身のように愛しなさい』という第二の戒めも、それと同じように重要です。この二つの戒めに律法と預言者の全体がかかっているのです。” マタイ 22:37-

聖餐のみことばと祈り

○主の招きのことば

「主イエスは、渡される夜、パンを取り、感謝をささげて後、それを裂き、こう言われました。『これはあなたがたのための、わたしのからだです。わたしを覚えて、これを行いなさい。』夕食の後、杯をも同じようにして言われました。『この杯は、わたしの血による新しい契約です。これを飲むたびに、わたしを覚えて、これを行いなさい。』」 1コリント 11:23-25

○悔い改めの祈り

私たちは、神の愛と赦しを与えられた者ですが、いまだ罪とあやまちに満ちている者です。「ひとりひとりが自分を吟味して、そのうえでパンを食べ、杯を飲みなさい」とみことばに勧められているように、今、聖霊の光によって示される罪を告白して祈りましょう。

○赦しのみことば

「神はそのひとり子を世に遣わし、その方によって私たちにいのちを得させてくださいました。それによって神の愛が私たちに示されたのです。私たちが神を愛したのではなく、神が私たちを愛し、私たちの罪のために、宥めのささげ物としての御子を遣わされました。ここに愛があるのです。」 1ヨハネ 4:10-

○聖別の祈り